
友と二人・・・

蒼炎鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友と二人・・・

【NZコード】

N8093A

【作者名】

蒼炎鬼

【あらすじ】

二人を襲うゾンビたち。一人は逃げそして・・・

(前書き)

初めて短編を書きました。
感想お待ちしております。
キャラ紹介も後書きにあります。

「なあ、これどうする?」

そう言つたのは僕【周】の友達【さとし】だ。

「どうしてなにが? 僕はこれを夢だと思いたいけどね・・・」

僕たちは背中を合わせ山のなかの周りを見渡すとおびただしい数の元人間がいた。

そいつらの皮膚は腐り、爛れ、なかには頭の半分が溶けているものもいた。

まさに【ゾンビ】と呼ぶにふさわしいと僕は思つていた。すると、冷静な声でさとしが話しかけてきた。

「俺たち死ぬのか?」

「冗談!!!! 死ぬのは嫌だよ? 僕は夢があるからねーーー!」

「夢? なんだよ周の夢」

今はそんなことを話している場合ではないのだが、この嫌な気分を無くしてくれるならと思いながら僕はさとしに夢を話した。僕はさ、こんな田舎はやく離れて都会に行ってみたいんだ

「なんでだ?」

「だつてさ都会だよ? 行つてみたいなあ・・・」

僕は夢を子供のように話しているが所詮は【夢】。

もうその夢は叶わないことを知つてゐる。そんなときさとしが「なんか普通の夢だな。もつとデカイ夢かと思つたぜ」

と僕の夢を馬鹿にした。僕は叶わない夢だと知つていたから怒る氣にもなれなかつた。

そんな話をしていたら、ゾンビが急に動き出した!

僕とさとしは走つて逃げたが昨日の豪雨があり地面がぬかるんでいてうまく走れなかつた。

「周!! 急げよ喰われるぞ!!!」

さとしが大声で叫ぶのも無理はない。僕たちは目の中で人が喰わ

れたのを見てしまったから。

ゾンビは人間に噛みつき、肉を喰い散らかしていた。そして、喰われた人は5分後くらいにはゾンビの仲間入りを果たしていた。つまりゾンビに噛まれる=ゾンビになるということだ。

「周！…早く！」

さとしは僕のことを気遣い後ろばかり見ていたため前が見えなかつた。そのとき前からゾンビが走ってきた。

「さとし！…前！…！」

僕は叫んでさとしに危険を伝えた。さとしは前を向き

「うわああ！！！」

と叫び声を上げた！だが、ゾンビは止まらない。

さとしは恐怖のせいで足がもつれ転倒する。

「さとし！…！」

僕はさとしに追いつきさとしを立たせる。しかし

「周・・・。ごめんな…！」

そういうとさとしは僕を押しゾンビに喰わせようとした。僕はい

きなりの事で頭が混乱していく。

「え？さと・・・し？」

僕の意識はそこで消えた・・・

(後書き)

名前：神楽 周

容姿：黒の髪に黒の瞳 15歳

性格：やさしい 真面目 おとなしい

名前：高橋 さとし

容姿：茶髪（地毛） 水色の瞳（実はハーフです）

性格：友達内ではやさしい 普段は短気

今回は短編だったのでキャラは一人しかいません。

15歳

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8093a/>

友と二人・・・

2010年11月16日11時14分発行